



アルムの丘から

第41号

発行日 令和3年7月7日 編集・発行 グリーンアルム広報委員会

郵便番号:382-0034 住所:長野県須坂市大字仁礼7番地10 電話番号:代表026-215-2662

須坂荘の運営を開始いたしました

4月1日に社会福祉法人グリーンアルム福祉会は、長野広域連合から移管された特別養護老人ホーム須坂荘の開所式を執り行いました。
コロナ禍の中ではありましたが、来賓の皆様にもご臨席を賜りました。
須坂荘が、今後も地域の皆様の施設としてお役立ていただければ幸いです。



開所式の様子



除幕式

左から 塩崎市議会議員、三木市長、町田前理事長、中島施設長

これまでの須坂荘は、特別養護老人ホームのみの単独施設でありましたが、4月からグリーンアルム福祉会運営の複合施設の中の一事業所となりました。グリーンアルム福祉会では、多種多様なサービス事業を展開していますので、ご利用者様の幅広いニーズに応えるだけでなく、地域の高齢者の皆様の生活を包括的に支援し、住み慣れた地域で人生の最期まで自分らしい暮らしを続けることができるための支援が可能であります。

春には須坂荘の敷地内で見事な桜の花を咲かせていた木々に、花が散った後に芽吹き始めた若葉の緑が日に日に濃くなり、生き生きとした新緑を愛でる時季となりました。
長野広域連合が運営されていた特別養護老人ホーム須坂荘は、令和3年4月1日からはグリーンアルム福祉会に移管され、グリーンアルム福祉会須坂荘として、新たにスタートいたしました。



特別養護老人ホーム 須坂荘
施設長 中島 圭子

施設長あいらじ

また、幸いなことに以前から須坂荘には、地域の大変多くのボランティアの皆様が関わって下さっています。残念ながら、現在は新型コロナウイルス感染症の予防対策の一環として施設内での活動を自粛せざるを得ない状況ではありますが、感染症が落ち着きました折には、地域の皆様方にも是非、須坂荘に足を運んで頂きますようお願い申し上げます。

施設では、集団生活となるため自宅での生活をそのまま継続することには限界がありますが、できる限りご利用者様やご家族様の願いや希望に沿うことができるように、ご利用者様に寄り添い、安心してご利用いただけるよう職員一同、尽力してまいります。

今後も長野広域連合が培ってこられた事業運営を基本に、更に地域に親しまれ、また地域にも貢献できるように施設となるよう一層邁進してまいります。今後共、関係機関や地域の皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



新たな出会いを楽しみに



居宅介護支援事業所 須坂荘
管理者 中村 真紀

サクラの木に囲まれ、田畑に精を出す方々の話し声や虫たちの音も自然に聞こえ、とても地域との距離が近い職場だな…。そんな第一印象でした。

令和3年4月1日から須坂荘が長野広域連合様からグリーンアルム福祉会に移管となりまして、荘内にあります「居宅介護支援事業所 須坂荘」を中村真紀、と大峡明美の二人で引き継がせていただきました。地域の皆様方、どうぞよろしくお願いたします。

ケアマネジャーとして、介護を必要とされる状態になった方の相談窓口であり、必要な介護サービスの調整等を行うことその他に、介護教室、75歳以上の独居の方の様子を伺わせていただく実態把握事業を行っています。また、介護の認定を受ける前の（須坂市の介護予防、日常生活支援総合事業の一つである）「はつらつ若返り教室」にも関わっています。介護の認定を少しでも遅らせるための重要な事業です。

介護の仕事は人対人です。ご自身の体の不安、今後の生活の不安など、デリケートな相談ごとが多いです。その中で、少しでも地域の皆様が話しやすく、その時に知りたい情報を伝えられる情報を持ち合わせながら、これからの生活にも何とかなるかもしれないと小さくとも希望の道筋のご提案を一緒に考えていければなと思っております。私も新しい職場で、新しい先輩方、仲間と仕事を始めて早三か月ですが、人との出会いにはいろんな刺激を多くもらっております。

同じ時間を過ごすなら楽しく、幸せに過ごしたい。皆様一人一人が住み慣れた地域でそれぞれの幸せな暮らしを送れるためにも、微力ではありますが力になれるよう努めたいと思います。

まだまだコロナ禍ではありませんが、体調に気を付けながら、人と比べることなく、自分の幸せや楽しみを見つけてられて、温かい気持ちで日々過ごせる方が一人でも増えますように。



ケアハウス利用者からのおたより

「買い物」

S 様

コロナ禍の中外出出来ない私達の楽しみは毎週火曜日に生協さんの移動販売車での買物の一ときです。二人の女性販売員さんは大きい車を運転して地下駐車場前にミニスーパー開店！私達は順番に消毒をして職員さんのサポートで密を避けて二人ずつ車に入りそれぞれ品定めしつつ「おやつは何にするかな」「旬の果物今日は何？」と元気な声が飛び交います。販売員さんの若いパワーをいただいて笑顔一杯のみんなの買物袋はいつもの様にずっしりと重く美味しいものがつまっています。寒い冬の日も西日照りつける暑い日も欠かさず頑張ってくださいている皆さんに感謝です。これからもよろしくお願いたします。

「えいがをみて」

M. S. 様

ケアハウスでは、第二日曜日と、第四日曜日に、えいがをみています。

西田さんと、三國さんの、つりばか日誌です。

西田さんは、三國さんが社長だとはしらなくて、いろいろとすきなことを、いっているところがとてもおもしろいです。

仕事をしないで、つりばかりやっています。

ドリフの全員しゅうごうもみています。

いかりやさんがリーダーで、やっています。

毎回いろいろなことを、考えてやっているなあと思います。

志村さんがおもしろいなあと思います。

みんなで大わらいしています。

これからもいろいろなえいがをみたいです。

編集後記

山々の緑も濃さを増してきました。野鳥の雛たちは巣立ちを迎えているようです。熊の目撃情報も多くなってきました。

私の家にはボーターコリーが1匹おります。朝、夕、夜の3回の散歩が日課となっています。雨降り、雪の日、よほどの事が無い限り、定期コースを周ってきます。自分の膝丈まで雪が積もった朝はさすがに大変でした。しかし、まるで泳ぐように雪の中を突き進む彼を見て、笑ってしまいました…。

散歩中に出会うのは、早朝ウォーキングの人々、空高く鳴く雲雀、畑の中を歩く雄の雉、子供達と一緒に雌の雉たち、電線にとまる鳶やノスリ、カッコウ。草むらに潜むへび。

夜は、鳴きながら歩き回るハクビシン、私たちの後をついてくるキツネ。山で鳴く日本鹿。灌水用の水管にとまるフクロウ。イノシシに追い抜かれたこともありました。幸いなことに、まだ熊には出会っていません。

コロナ感染対策等で、緊張している毎日ではありますが、1回20分程度の散歩は気持ちの安らぐ時間でもあります。コロナの予防接種も地域差こそありますが、進んでいます。

1日も早く世の中が落ちつくように願っています。

(篠原)